※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽 （独唱）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	Joy of Music（教育芸術社）						
副教材等	イタリア歌曲集１・コンコーネ 50 番（全音出版）・日本歌曲名歌集（原調版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、イタリア歌曲集とコンコーネ５０番、ファイル、筆記用具、進度に合わせて使用する楽譜を各自持参してください。専門実技の力を伸ばすためには不断の努力が必要です。目標とする夢や進路を実現するための意識を高く持ち、指導された内容について復習を十分に行い、身についた技術を他の楽曲に応用してみましょう。楽曲に取り組む際、作られた背景や時代、詩の内容など曲によって異なる背景を十分に理解し創造的な表現につなげられるよう準備・工夫してレッスンに臨みましょう。進路実現のためにも基礎基本となる声楽テクニックの定着と応用を図ります。

普段の授業の成果を発表する場として、学内演奏会（ピッコロコンチェルティスタ）や合唱授業の演奏会(技術の応用を図る)があります。試験の課題に加え、進度に合わせ本番で演奏する機会を積極的に持ちながら学んでいきましょう。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽器である身体の仕組みや楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的･歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。【知識】 ・自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能(曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして歌う技能など)を身に付けて、歌唱で表している。【技能】	歌詞の内容や、言葉の持つ語感について考え、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うか、他の声部との関わり合いをどのように歌うかによって表現意図を持っている。また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた歌い方や音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	曲種に応じた表現内容を幅広く表現するための歌唱力伸長	コンコーネNo38～41 イタリア古典歌曲と日本歌曲、またはドイツ歌曲 Per　pieta bell'idor mio Lungi Tristezza Rosa 他、進度と進学希望先を見据えた課題曲の取り組み	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲についてリズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解し、発声のテクニックに応じて安定して表現できる。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語・ドイツ語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解し、表現に生かすことができる。 【技】ベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語・ドイツ語の発音、身体の使い方などについてさらに深め、安定した技能を身に付け、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b：曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもって歌唱することができる。 c:イタリア古典歌曲が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第1回 実技 試験	第1回 実技 試験	日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りシート 【試験前】 振り返りレポート 【試験後】

※令和４年度以降入学生用

後期①	曲種に応じた表現内容の理解に基づく創造的な表現	コンコーネNo41～50 古典作品を中心とし、個別の進度に応じて、Donaudy 歌曲、Bellini の作品他、 オペラアリアやオラトリオ、コンサートアリアを含む楽曲，大学入試課題 Vaghissima sembianza Luoghi sereni e cari 他	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲、入試課題において、リズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解し、発声のテクニックに応じて安定して表現できる。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語・ドイツ語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解し、表現に生かすことができる。 【技】エチュードや入試課題等の歌曲、オペラ作品においてベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語・ドイツ語の発音、身体の使い方などについてさらに深め、安定した技能を身に付け、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b：歌曲、入試課題曲において、曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもって歌唱することができる。 c:歌曲、オペラ、入試課題曲などにおいて、イタリア古典歌曲が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第2回 実技 試験	第2回 実技 試験	振り返りシート (次の目標) 日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りレポート 【試験前】 振り返りレポート 【試験後】
後期②	曲の表現を可能とする声作りから音楽づくり	必要に応じてコンコーネ25番やVaccai,Panofka、Sieber などその生徒に合ったエチュードを学ぶこともある。 alma grande Voi che sapete Convien partir La serenaa 日本歌曲 入試課題他 ＊選曲については生徒の進度や実態、声の発達に合わせた相応しい楽曲を担当教員でそのつど決定する。				日々のレッスン記録ワークシート (次の目標) 見取り 振り返りシート 【試験前】 振り返りシート 【試験前後】

※　表中観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※ 学習内容にあげた曲は課題曲として示されたものであり、全てに取り組むという意味ではない。また個別の専門的な指導の中で個に応じて他の曲も学習する。